



	書名	著者名	請求記号
1	両手にトカレフ	ブレイディみかこ著	913.6/Br
2	カルト村で生まれました。	高田かや著	916/Ta
3	図解超早わかり 18歳成人と法律	南部義典著	324/Na
4	あの時も「こうあるべき」がしんどかった：～ジェンダー・家族・恋愛～	パレットーク著、ケイカマンガ	367/Pa
5	つながり続ける こども食堂	湯浅誠著	369/Yu
6	子どもが不登校になっちゃった!：「なんでうちの子が…」から先へ進める復学までのポイント	ラン著	371/Ra
7	きみのことがだいすき	いぬいさえこさく・え	726/In
8	かすがい食堂	八伽古屋圭市著	913.6/Ka
9	パリの空の下で、息子とぼくの3000日	辻仁成著	914/Ts
10	沈没家族：子育て、無限大。	加納土著	367/Ka
11	うちの息子はたぶんゲイ 1～2	おくら著	367/Ok/1～2
12	女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと	西原理恵子著	914.6/Sa
13	気づけない毒親	高橋リエ著	367/Ta
14	子どもが危ない! スマホ社会の落とし穴	清川輝基・内海裕美共著	493.9/Ki
15	子どもが心配：人として大事な三つの力	養老孟司著	370/Yo
16	子どものための精神医学	滝川一廣著	493.9/Ta

両手にトカレフ

グレイティ マカニ

「親ガチャ」という言葉を最近よく耳にする。

親の職業や経済力を理由に、自分の産まれた場所・環境を「当たり前」「ハズレ」と分別するって。

父はおらず、母は無職でドラッグ中毒、親ガチャは完全にハズレで貧乏ながらも非力な子どもであることから逃げられない主人公のミア、金子文子に共感し独りで立ち回るとする彼女は、イギリスに実在する1人の少女だと頭に留めなければ誤んでほしい。

高田やや 著

カルト村で生まれました。

家もお金も、服も食べものも 個人が所有することと全否定する「カルト村」。

20代でそれぞれ「入村」した両親とも離れられ、

小学生の労働を課される環境で集団生活を

送ってきた著者が語る詳細な「思い出話」は

眉をひそめずにはいられないのに

何かがおかしい……。

この気持ち悪さこそが、「カルト村」で生まれ育ったことによるものだと感じる一冊です。

図解 超早わかり 18歳成人と法律

2022年4月1日から、成人年齢が「**18歳**」と変わりました。
 大学生の皆さんは、すべて成人です。成人とは何か。親の同意を得ず、自分の意志で様々な契約ができるようになる年です。しかし、今回の民法改正によっても、

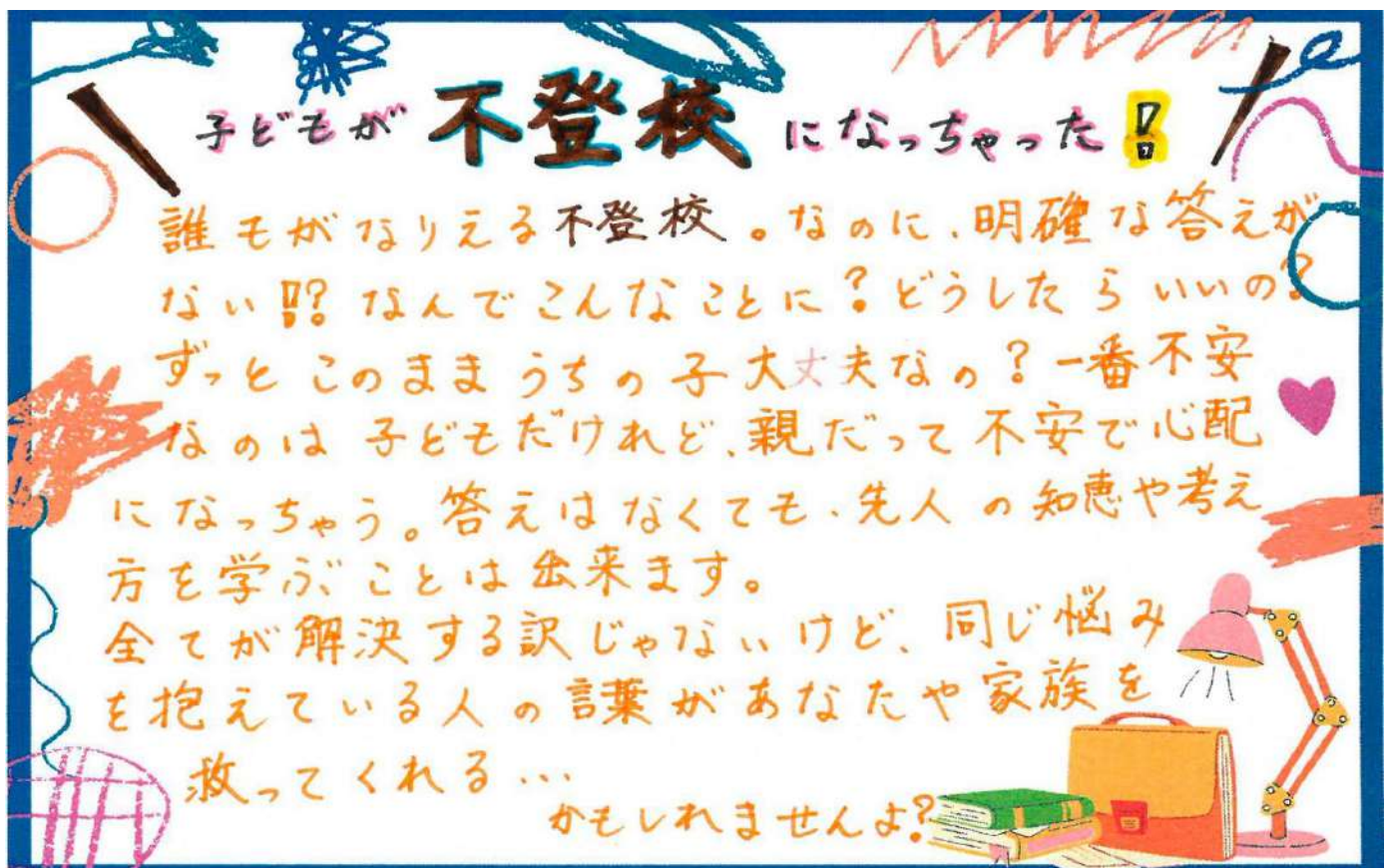
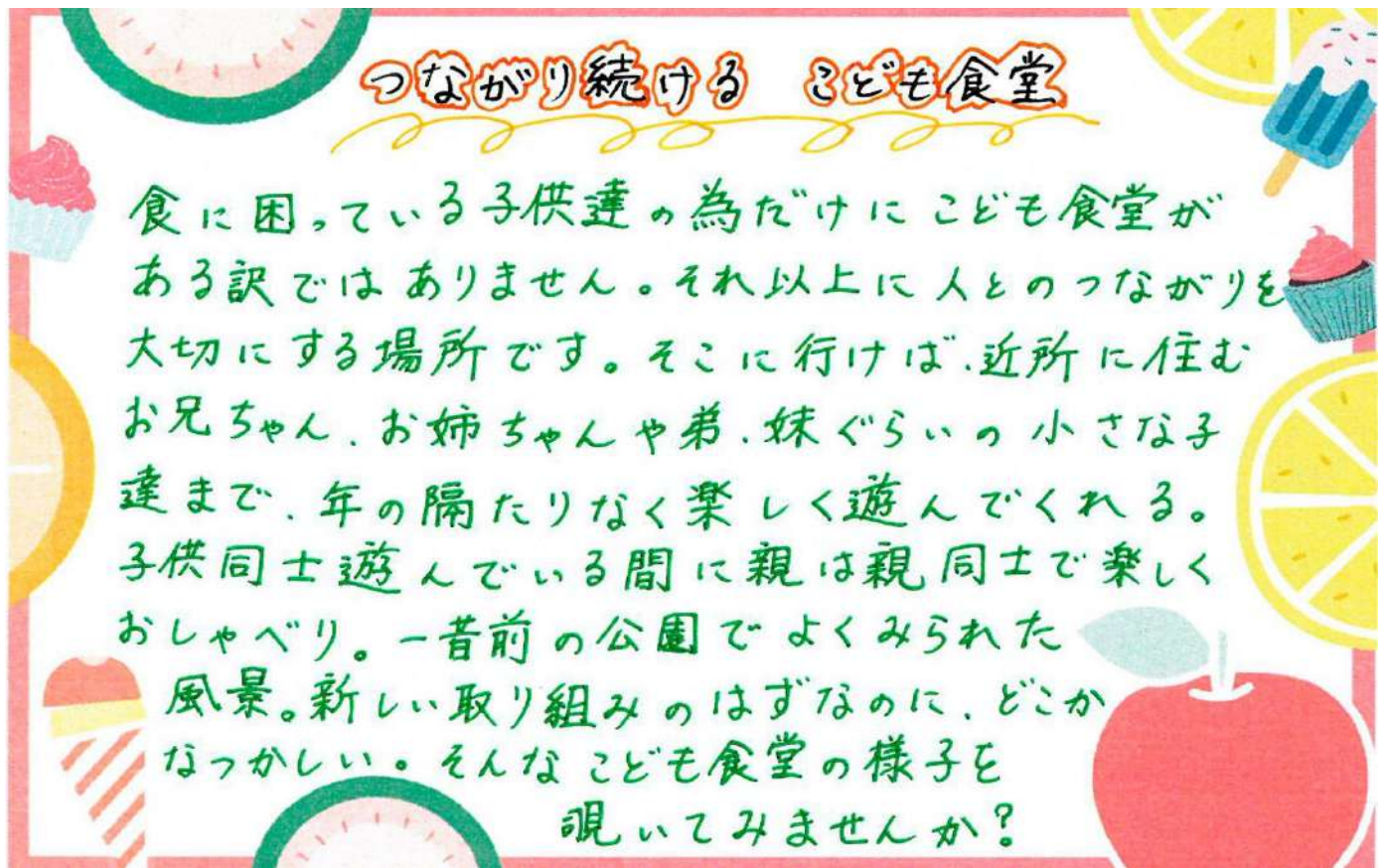
- ▶ 女性の結婚最低年齢は 16 → 18歳へ引き上げ
- ▶ 飲酒・喫煙・競馬などは 20歳からのまま
- ▶ 成人式は？ … 各自治体による とのこと。

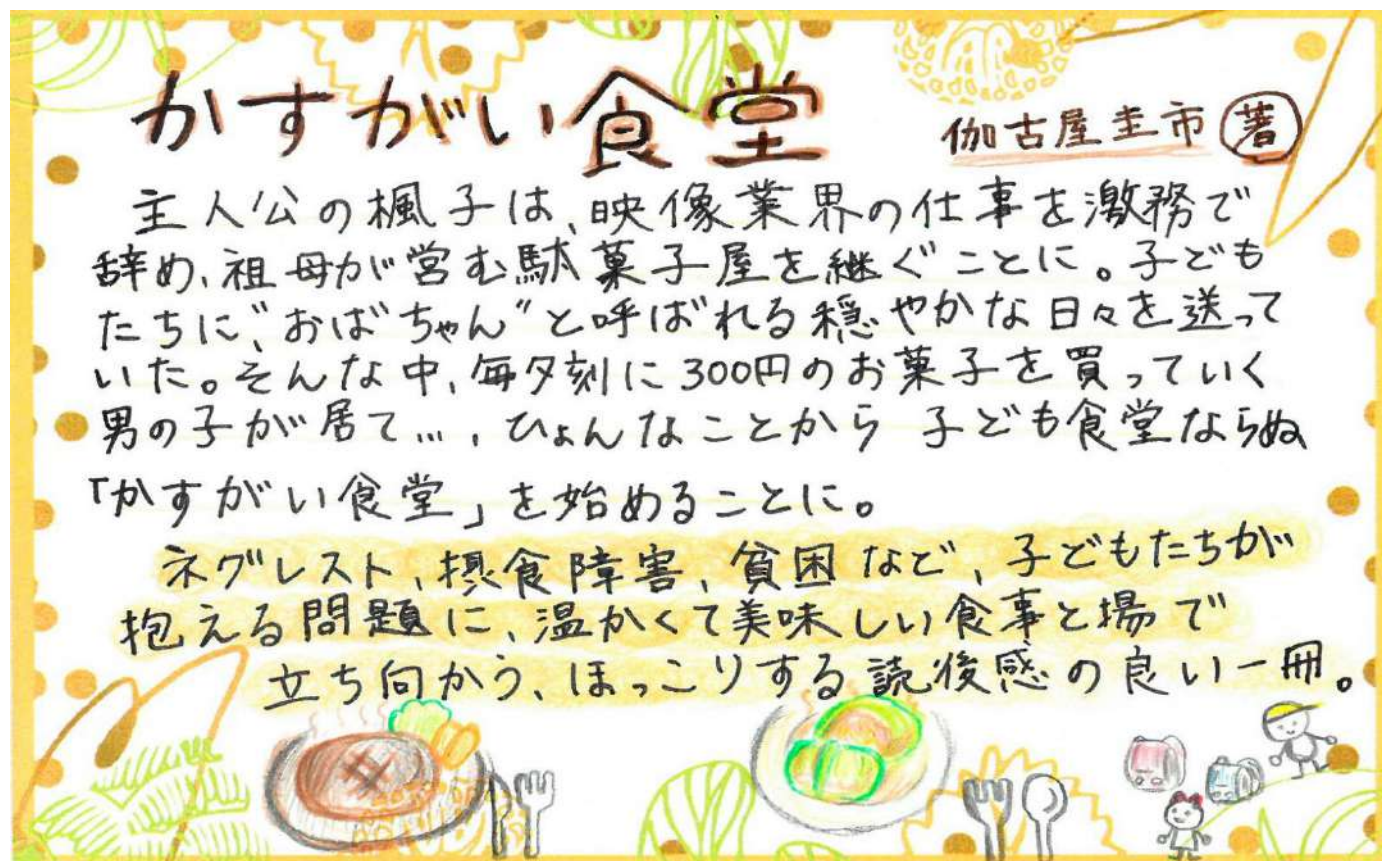
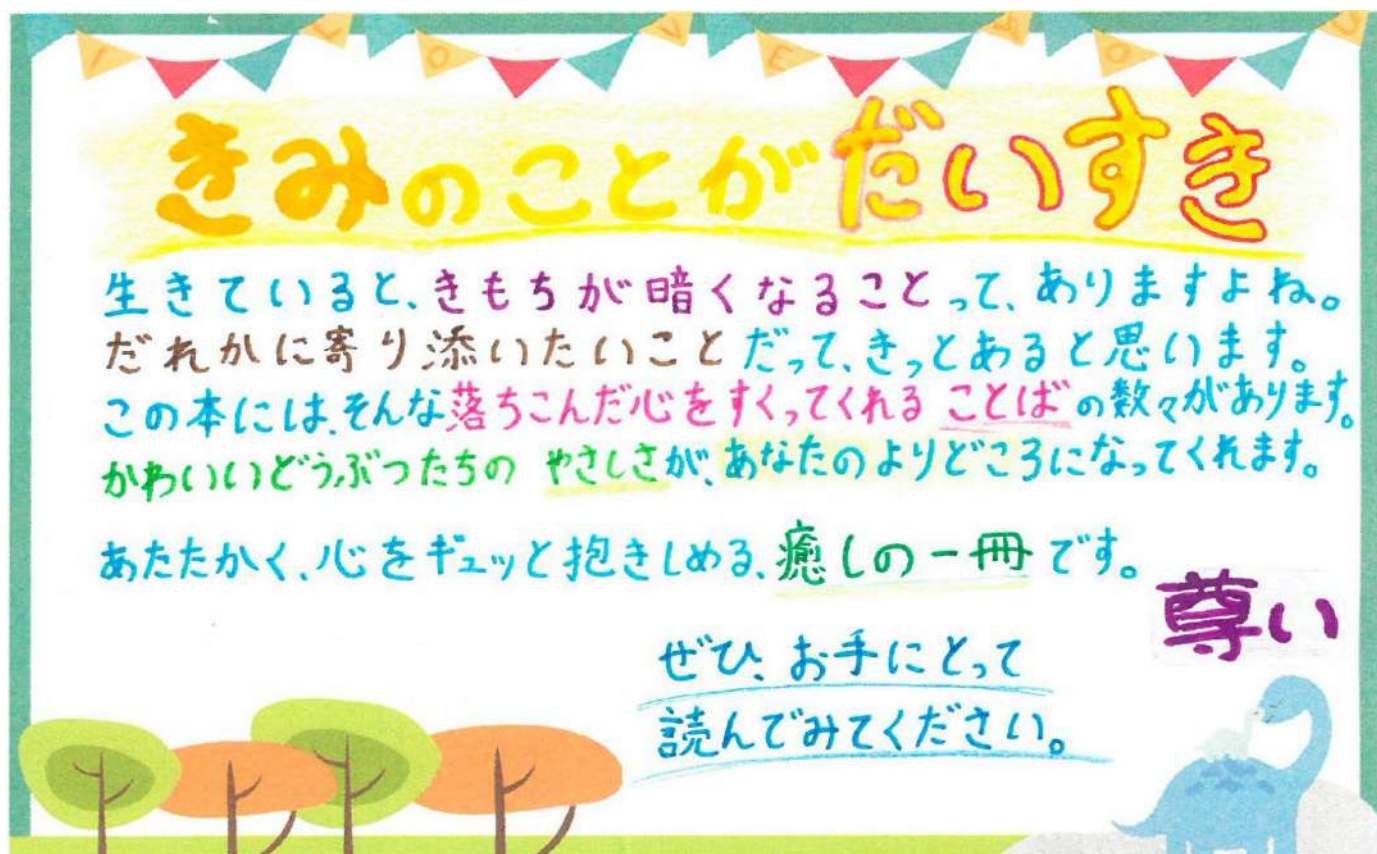
具体的な改正内容や、今後の課題などは、この解説本を読んでみて、どうなる？ どうする？を知ってみませんか。

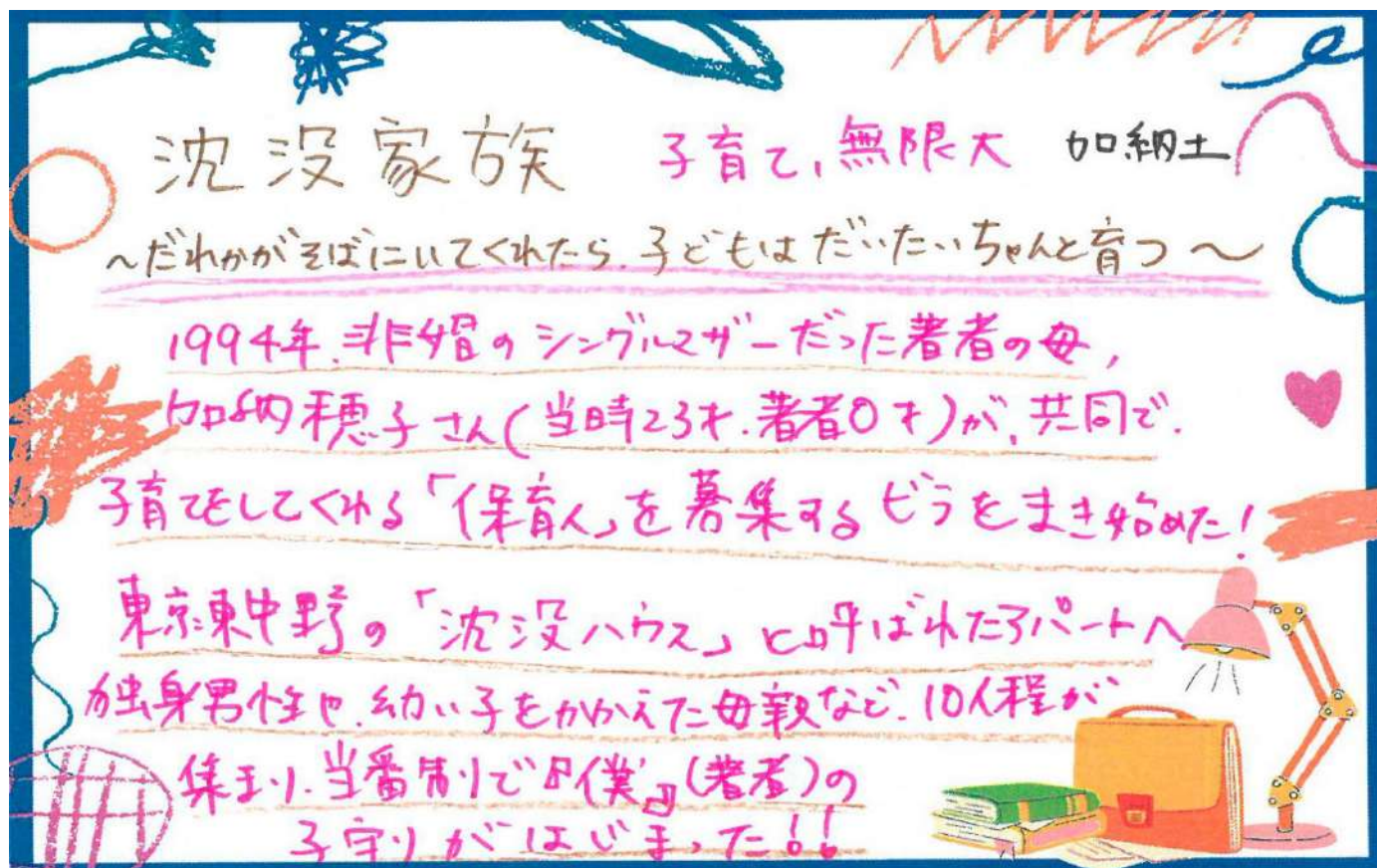
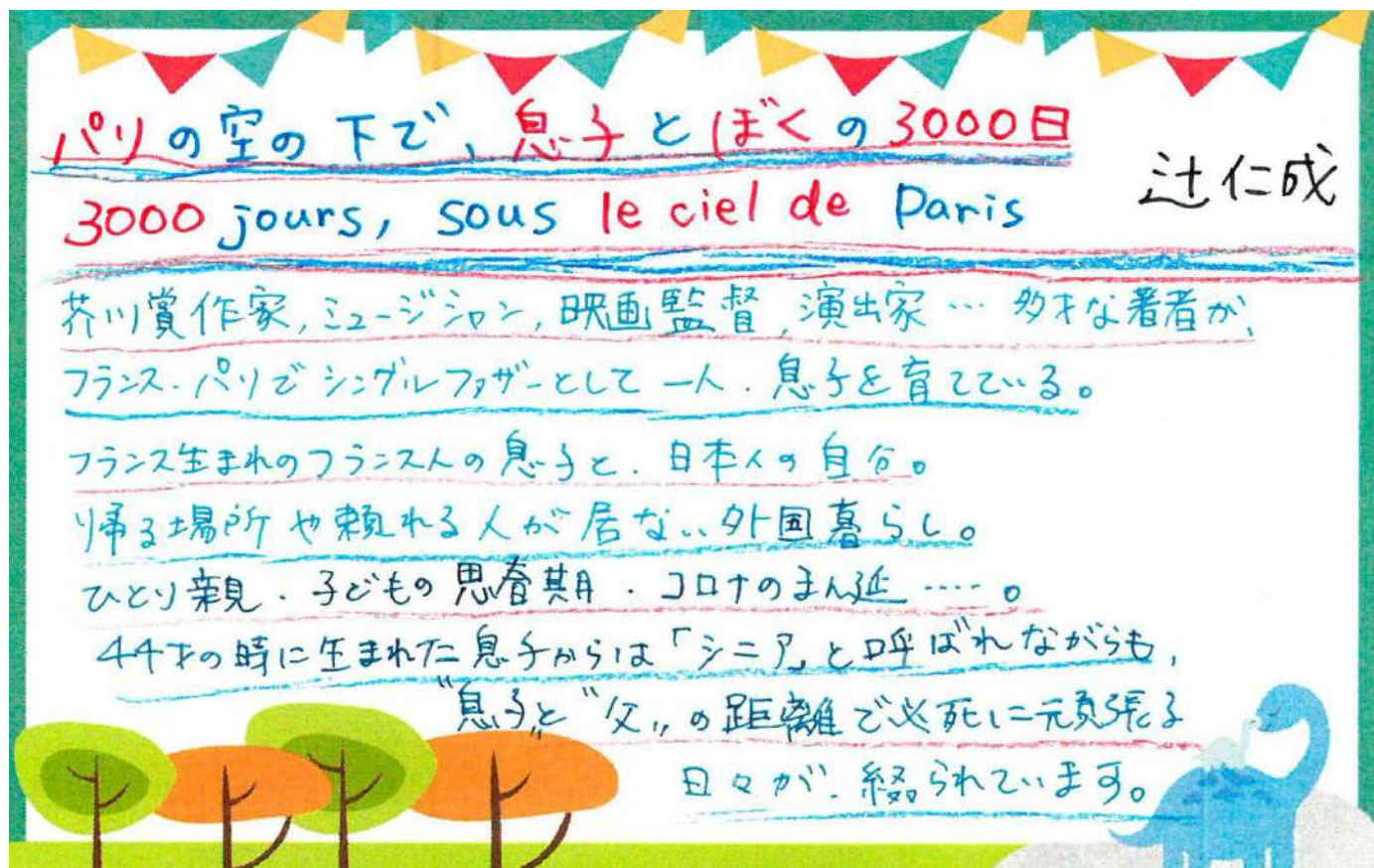
あの時も「こうあるべき」がレンドバ、たへジェンダー・家族・恋愛～パレットワーク著

幼少期に言われた言葉や、読んでいる本・雑誌に書いてあることは、まるでそれが世界の理であるかのうように子どもには聞こえます。
 しかしそれは世界中で通用する常識ではないばかりか、逆に視野を狭くするだけの言葉だったのかもれません。

周りと違う自分・友だち・兄弟姉妹を「普通じゃない」と傷つけてしまいう前に、自分の常識アップデートしてませんか？







うちの息子はたぶんゲイ おくら著

「うちの息子はたぶんゲイで、素直でとってもかわいいのよ」(本文より)

タイトル通り、母親が、「武蔵はゲイなのでは?」と疑問を抱きながら送る日々を送ったコミックです。

母親目線で書かれているので、真相は分かりませんが、息子本人は隠そうとしているけど、バレバレなところが……。

「息子には息子の考えと幸せがあるんだよね」(本文より)

そう思えるお母さんがとても素敵です。

「武蔵のゲイ」が「バレないか、ヒヤヒヤするかい、読み進めていくうちに「武蔵も肯定する母」に気づき、ほのぼのとした気持ちになります。



女の子が生きていくときに、西原 理恵子 覚えていてほしいこと

今年西原氏の娘のブログが発見され SNSでざわつきました。

現在は削除したようですが、彼女の抱えてきた苦しみは吐き出されていて、親による子の人権侵害を考えるきっかけとなりました。‘子育てエッセイ’はひとつの人気ジャンルとして

世に溢れています。彼女を苦しめたのは他ならぬこの本なのです。あなたはこの本をどう読みますか?

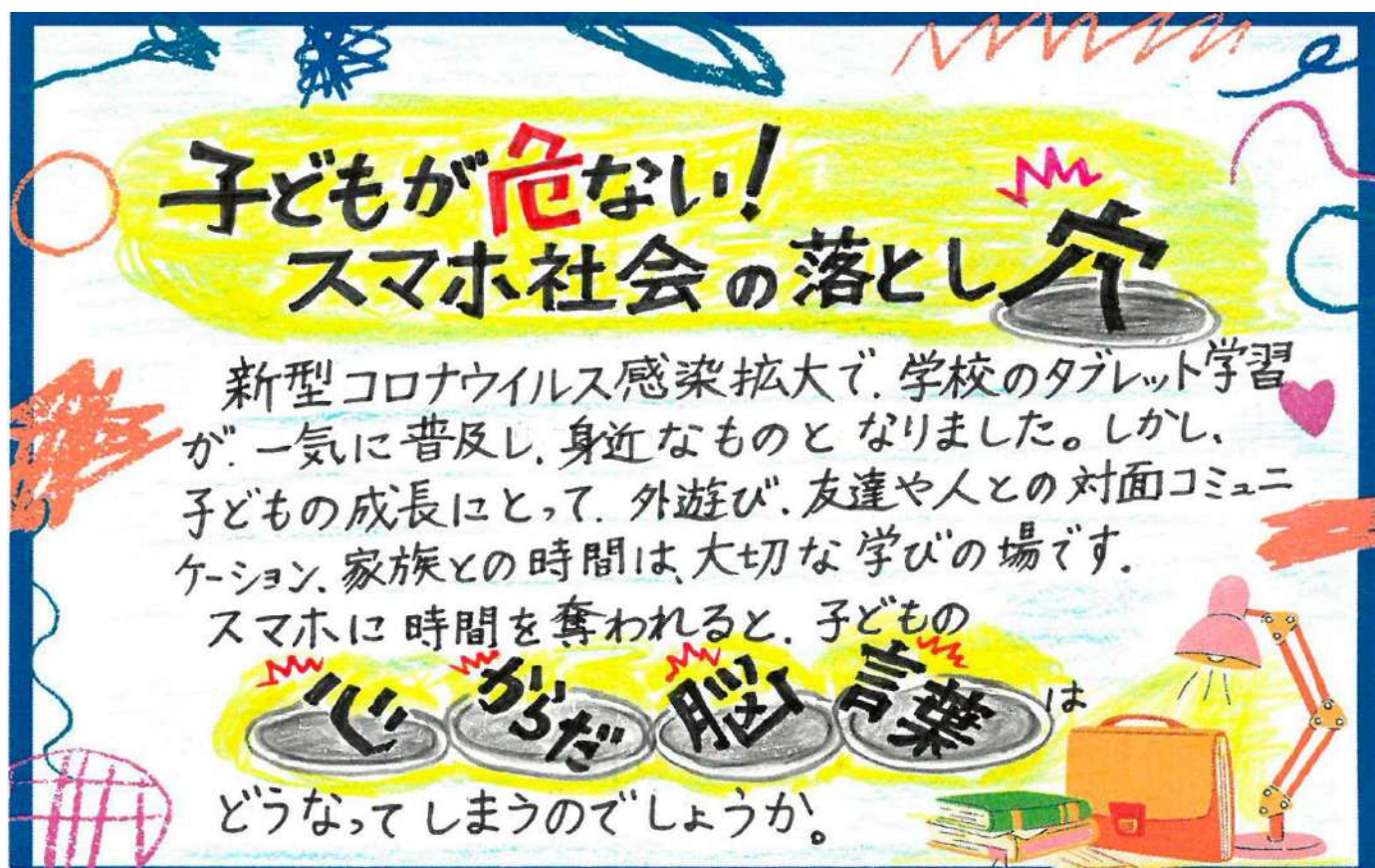
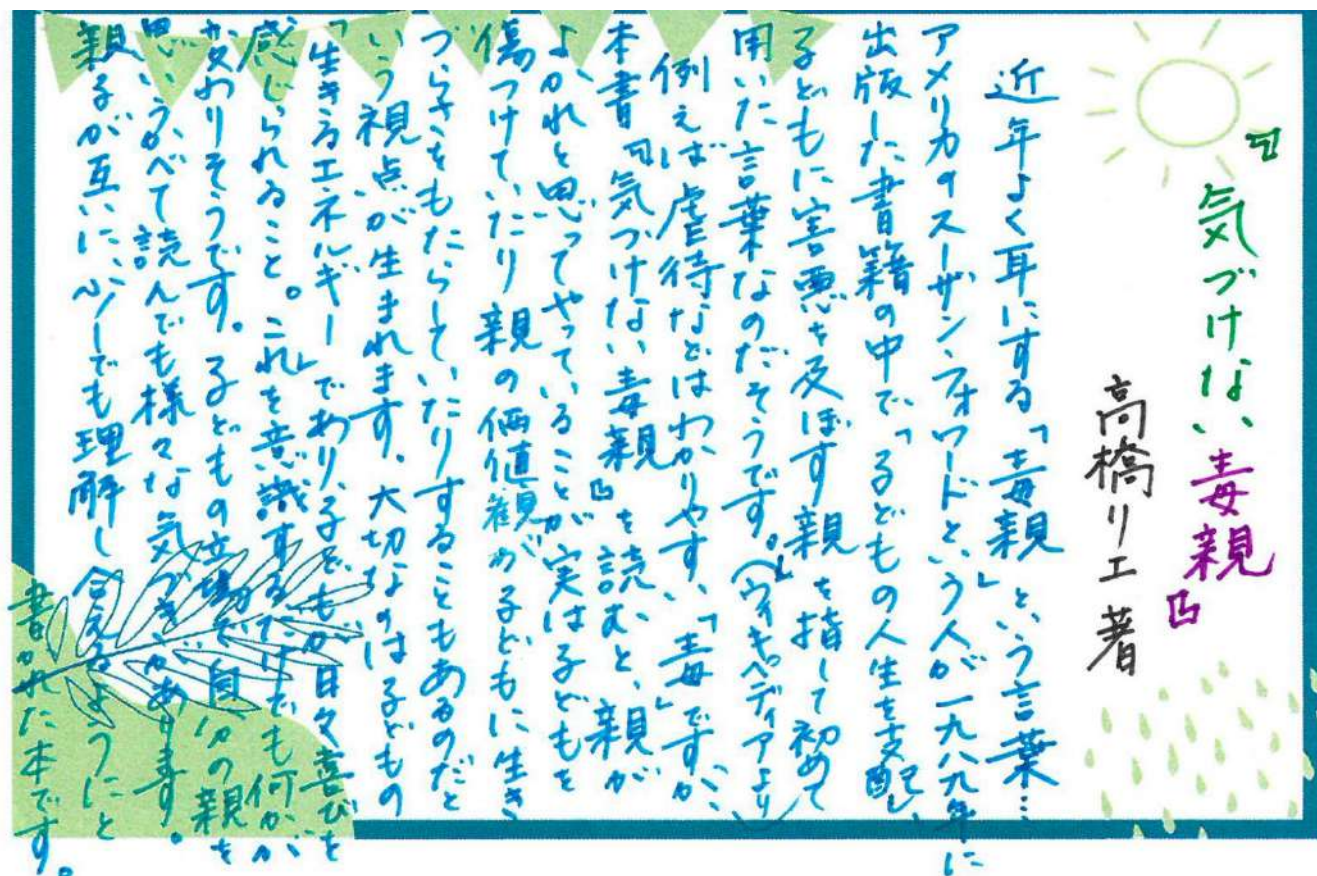
現在は SNSが人々の生活に浸透し、著名人ならすとも我が子の成長を公開する親が散見されます。姿の公開はNGか、

日常会話の切り取りは問題ないのか、子の許可は

必要か、その判断を子どもはできるのか、

多くの考えるべきことが存在しています。





子どもが心配

人として大事な
三つの力

養老孟司著

この本は養老孟司氏と子どもと接している専門家の3名との対談形式で書かれている。

第一章は児童精神科医で医療少年院での勤務経験もある宮口幸治氏。第二章は小児科医 慶應義塾大学小児科の医師で教授の高橋孝太郎氏。第三章は国産初の超電導MRIを開発し脳科学と教育について研究の幅を広げている小見英明氏。

この中で私が特に心に残ったのは第三章の「教育の最終目標は子どもたちが一生を通じてより良く生き 幸せになること」というもので、この「幸せ」とは物質的に満たされることより、いま置かれている状況に満たされ「自足」して生きることにあるという言葉である。

『子どものための精神医学』 滝川一廣 著

日々の暮らしの中で子どもたちと直接のかかわる人たち（親、教員、保育士、子どもの診療にあたる医師や看護師など）にとって、子どものこころの病気や失調、障害を理解したりケアしたりするために役立つことをめざして本。次の3つの観点を基本にして書かれています。

- ① 成長途上である子どもの精神障害をこころの成長、精神発達の流れの中で考えること
- ② 子どもの精神障害を、社会や文化の問題としてとらえること
- ③ 子どもや子どもの精神障害への基本的な考え方やかかわりの姿勢を一回かぎりの人生を歩みはじめている子どもたちとのかかわりに生かせるべく伝えていくこと

精神医学の原理と実践が、つねに手元に持つて丁寧に書かれています。



MEMO





MEMO





愛知学院大学
歯学・薬学図書館情報センター

コンセプトコーナー 2022年 10月

子どもたちの現代社会 ～未来は子どもの手のなかに～

